

(報告)

米国における Doctor of Nursing Practice 教育の現状と課題

上條優子¹⁾ 井上みゆき¹⁾ 渡辺かづみ¹⁾

要 旨

本研究の目的は、米国における Doctor of Nursing Practice (DNP) の教育の現状と課題を明らかにし、日本で DNP を導入するための課題を考察することである。DNP 教育とは、看護実践を重視した博士課程の教育である。方法は便宜的標本抽出法により同意の得られた4名の大学教員と、4名の DNP プログラムの学生および修了者に半構成的面接を行い、調査結果をまとめた。その結果、米国における DNP 課程は PhD 課程より需要が多く今後も増え続けることが予想された。そして、多くの DNP プログラムはオンライン教育であり、教員・学生共にオンライン授業についてメリット、デメリットを理解しておくことが大切であることがわかった。更に、DNP を修了した看護師は、リーダーシップやマネジメント能力を駆使し、現場に適応し、患者アウトカムを向上させる能力が身につくことが示唆された。

キーワード： Doctor of Nursing Practice 博士課程 看護教育 米国

I. 緒言

医療の高度化、超高齢化社会の進行、人口過疎による医療圏の地域格差、在宅医療への施策の重点化、医師不足など社会情勢の変化に伴い、看護師に求められる役割は広範囲に及んでいる。また、2014年6月には「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が成立し、保健師助産師看護師法第37条の2として「特定行為に係る看護師の研修制度」が法制化され¹⁾、看護の役割範囲(裁量権)は拡大している。このような背景のなか、看護専門職者のキャリア形成の関心も高まり、看護師の大学院進学意識も高まっている。そのため、日本における看護系大学院の数は年々増加しており、博士前期課程・修士課程のある大学は2016年4月には161校、博士後期課程のある大学は85校ある²⁾。その中で高度実践看護師教育課程を提供している大学は107校以上ある²⁾。日本における高度実践看護師というのは専門看護師(Certified Nurse Specialist: CNS)と診療看護師の事であり、日本では高度実践看護師教育は修士課程で行われている²⁾。

一方、米国では高度実践看護師は Advanced Practice Nurse :APN と呼ばれ、具体的には麻酔看護師(Certified Registered Nurse Anesthetist: CRNA)、認定助産師(Certified Nurse-Midwife: CNM)、専門看護師(Clinical Nurse Specialist: CNS)、認定ナースプラクティショナー(Certified Nurse Practitioner: CNP)の事であり、修士課程または博士後期課程を修了した看護師を指す³⁾。かつて、高度実践看護師の教育は修士課程で行われていたが、2000年頃より医療の高度化が進み、医療従事者の実践能力を引き上げることが検討され、実践能力の優れた看護師を育てるために博士後期課程における教育の必要性が論じられ始めた⁴⁾。それに加え、高度実践看護師教育の専門分化による単位数の増加のため、修士課程の2年では足りず、4から5年の修行が必要になってきたため、博士後期課程が設立された⁴⁾。高度実践看護師等のためのケア実践を重視した博士課程は Doctor of Nursing Practice: DNP と呼ばれ、現在は多くの大学で DNP 課程を提供している。米国看護系大学協議会(American Association of Colleges of Nursing: AACN)によると、

(所 属)

1) 山梨県立大学看護学部

2006年にPhD (Doctor of Philosophy) 課程を提供していた大学は103校であったが、2013年には133校に増加している⁵⁾。それに対して、DNP課程は2006年には20校であったのが2013年には241校に激増している⁵⁾。DNP課程は、PhD課程と違い、未知の現象を研究する能力の開発を目指した博士論文を書くコースではない。DNP課程はエビデンスに基づく高度な看護実践をプロジェクトとして臨地で実施し適切に評価し現場での医療の質に貢献できる能力の開発を目指し、看護ケアを行う実践家としての知識や技術において博士の学位にふさわしいアカデミックな要素も加味した教育である⁶⁾。DNP課程において誤解されやすいのがDNP課程の受講対象者についてである。このDNP課程の受講対象者は、高度実践看護師のための修士課程を修了した専門看護師や認定ナースプラクティショナーのみならず、高度実践看護師以外の看護系修士課程を修了した看護管理者 (ANCC's Advanced Nurse Executive certification) やパブリックヘルスナース (ANCC's Advanced Public Health Nurse certification) など対象となる⁷⁾。

次に、日本で高度実践看護師を想定した博士後期課程教育の研究としてどのようなことが行われているのかを調査するために、医学中央雑誌で「看護師・博士後期課程・教育・原著論文」で検索したところ42件が検出された。しかし、41件の論文は、著者が博士後期課程の所属のため検出されたものであり、博士課程教育に関する論文ではなかった。残りの1件のみが看護系大学院教育についてキャリア形成との関連を示す論文であった⁸⁾。次に、「高度実践看護師・原著論文」で検索したところ12件が検出された。訪問看護における医療サービスの裁量権拡大につながるナースプラクティショナーについて⁹⁾¹⁰⁾、ナースプラクティショナーとフィジカルアセスメント¹¹⁾、周麻酔期看護師の確立¹²⁾¹³⁾、糖尿病専門の高度実践看護師の必要性¹⁴⁾、がん看護におけるナースプラクティショナーとCNS¹⁵⁾などの論文があった。しかし、博士後期課程における教育を想定した論文ではなかった。更に「Doctor

of Nursing Practice」で検索したところ5件検出されたが看護教育としての博士課程について記されていたのは1件のみであった¹⁶⁾。この論文は、2007年に米国のバージニア大学で行われた調査であり、米国では実践を重視した博士号 (DNPプログラム) を設けることを推進していること、そしてこのことは、日本の看護の高等教育について検討する上で何らかの示唆を与えてくれるとしていた¹⁶⁾。

以上のことから、日本では、高度実践看護師のための博士課程に関する研究が少ないこと、そして看護系大学院教育の問題として、進学を希望しているが就業との両立が困難なため夜間開講の希望者が多く仕事を続けながら学べる環境作りが大切であることを鑑み、先駆的な役割を果たしている米国の看護系大学院教育の現状とその課題を検討することにより、日本における看護系博士後期課程についての示唆を得ることができると考え、調査を行った。本研究の目的は、米国におけるDoctor of Nursing Practice教育の現状と課題を明らかにすることである。そして、日本でDNPを導入するための課題を考察することとした。

II. 方法

1. 調査期間

2015年1月～2015年2月とした。

2. 調査協力者

米国カリフォルニア州、およびノースカロライナ州で、高度実践看護師のための博士課程、すなわちDNP課程を提供している大学の管理的立場にある教員、およびDNP課程に在籍もしくは修了した看護師とした。調査協力者は、便宜的標本抽出法 (偶発的標本抽出法 accidental sampling) で決定した。

3. データ収集方法

半構成的面接法を行った。

- 1) 事前に紹介者を通し内容を提示し、面接の内諾を得た。

- 2) 面接はプライバシーの確保できる場所を確保した。
- 3) 面接は、60 分程度を目安とした。
- 4) 面接は対象者の許可を得られた場合、面接内容を録音した。

4. データ収集内容

面接は、以下の項目について質問した。()内は協力者の属性である。

- 1) PhD と DNP について (教員)
- 2) DNP 課程の教育プログラム (教員)
- 3) DNP 課程を開始するための準備 (教員)
- 4) DNP 課程を教える教員の条件 (教員)
- 5) DNP 教育の実際 (教員)
- 6) DNP という博士後期課程における教育プログラムの工夫 (教員)
- 7) DNP の成果 (学生・教員)
- 8) DNP の課題 (学生・教員)

5. データ分析方法

得られたデータは、インタビュー時には許可を得て録音しテープから文字起こしした。英文と和訳の逐語録を作成し、調査目的に沿って分類しまとめた。3 人の研究者で分析を行い、意見が一致するまで検討を継続し、信憑性の確保に努めた。

6. 倫理的配慮

国外での調査となるため、日本の高度実践看護師教育の構築に貢献した米国の看護教育者に本調査のコーディネーターを依頼し、事前に調査協力者に面接の内諾を得てから行った。

インタビューは自由意志による参加とし、拒否する権利、参加しなくても不利益を被らないことを説明した。

本研究は、山梨県立大学看護学部研究倫理審査の承認を得て行った(承認番号 1422)。

III. 結果

1. 調査協力者

調査協力者は、管理的立場にある教員 4 名、

学生として DNP 課程の修了者 3 名および在籍中の学生 1 名の計 4 名であった。提供された資料も含めデータとした。

2. 米国における高度実践看護師のための DNP (博士後期課程) 教育の現状

1) PhD と DNP について

PhD は、研究で新しい知見を得るために看護師に用意されている。DNP は、研究から得られた知見をケア実践し評価するために看護師に用意されている。つまり、PhD が看護実践に役立つ新しい知見を発見し、それを DNP が看護実践に活用し評価する。従って PhD と DNP の 2 つの役割は、専門的知識の構築の点で相補であり、協働的なチームワークで実践することを必要としている。また、DNP は伝統的にある PhD とは異なる、新しい博士課程であり、私立系大学院では早期から DNP 教育が開始されていた。一方歴史的に PhD 教育を行っている州立系の大学院では、博士論文ではなく、看護実践に重きを置く DNP 教育に反対する教授陣もいるようで DNP 課程設立の検討はされているが、開始していない大学もあった。

2) 高度実践看護師のコンセンサスモデル¹⁷⁾と DNP 課程の必須要件⁷⁾

米国では、高度実践看護師には修士課程を修了した看護師と博士課程を修了した看護師が存在する。そのため、米国における高度実践看護師の合意形成のためにコンセンサスモデルがある¹⁷⁾(図 1)。教育という観点では、高度実践看護師は、最低修士課程を修了していなければならないが、DNP や PhD を修了した高度実践看護師も存在する。また、高度実践看護師が活躍する領域という観点では、成人看護・老年看護、家族看護、小児看護、女性看護、精神看護などに分かれ、高度実践看護師の専門分野と言う観点ではさらに細かく分けられる。特に専門分野は今後さらに細分化するものと思われる。

次に、DNP 課程のためのコアコンピテンシー⁷⁾について表 1 にまとめた。DNP を修了すると表 1

教育	高度実践看護師	領域	専門
Master of Science in Nursing (MSN)	麻酔看護師:CRNA	成人・老年看護学	がん
Doctor of Philosophy (PhD)	認定助産師:CNM	家族看護学	クリティカルケア
Doctor of Nursing Practice (DNP)	クリニカルナース スペシャリスト:CNS	小児看護学	糖尿病
	認定ナース プラクティショナー: CNP	女性看護学	整形外科
		精神看護学	緩和ケア
			etc....

図 1. 米国高度実践看護師のコンセンサスモデル⁷⁾表 1. DNP のコアコンピテンシー⁷⁾

コアコンピテンシー
科学的基礎能力
リーダーシップ能力
ヘルスケアの質を管理する能力
実践を探究していく能力
テクノロジーと情報リテラシーを駆使できる能力
政策に関する能力
ヘルスケアサービス提供システムに関する能力
倫理的判断能力
自律的实践能力

のような能力が身につくということになる。DNP は、エビデンスの確立されたケアを実践し現場で活用し医療のアウトカムに貢献する能力が必要であるため、チームをまとめるリーダーシップ能力や、世界で発表されたエビデンスをシステムティックに分析できる能力も必要となる。さらに、実習時間として、大学卒業後 1000 時間の実習が義務付けられている⁷⁾。そして、DNP 課程の中心となる科目として、プロジェクトを実践する活動が組み込まれている。これをキャップストーンプロジェクト (capstone project) と呼んでいる大学もある。DNP 課程のキャップストーンプロジェクトの例として、「トランスジェンダークリニックの立ち上げ」「コミュニティカレッジの学生を対象とした性感染症予防プロジェクト」「マグネットホスピタルの承認を得た

めの地域の複数病院連携」「膀胱留置カテーテル感染症減少のためのプロジェクト」「貧困地域でのプライマリーケアクリニックの立ち上げ」「小児科病棟での家族宿泊を可能にするためのプロジェクト」など実際に実践の場で組織変革をもたらすプロジェクトを実施し、結果を出すことが重要となる。この中のプロジェクトのいくつかは実際にマスコミに取り上げられ社会的に良い評価を受けていた。

3) DNP 課程を開始するための準備

DNP という新しい博士課程を始めるときには、大学のトップリーダーがなぜ看護実践博士が重要であるのか、その学位を取得して修了した人々は何ができるのかを理解していることが重要である。カリキュラムを作成し、承認を得ること、教授団に支払う融資を得ること、カリキュラムを受講することによって何がかわるかということ、受講すれば学生が変化するということを雇用者や教授陣に確信させることもとても大切である。特に新しい教育を始めるための補助金について調査し獲得することは重要である。

また、DNP 課程を開始するにあたり、修士号を取得しているクリニカルナーススペシャリストやナースプラクティショナーと DNP を修了した看護師の違いを、教員・一般の人・雇用者・学生に具体的にわかってもらうことが大切であ

る。そのために、何を目的とし、どう示したらよいのかを考えることがとても大切である。特に何か新しいことを始める時には看護教員の中に反対する人がいる。従って、この DNP という博士課程を開始するための理解や協力を求めるための対策には 1 年以上かける必要があるとのことであった。

次に、DNP 課程にするのか PhD 課程にするのかの判断にあたっては、どこに誰がいてどんなニーズがあり、その地域の他のどの学校が何をしているかについて等のマーケティング戦略を考えることが重要である。これには時間をかける必要がある。近隣だけでなく全米の大学との比較をすることも大切である。DNP 課程を提供している多くの大学がインターネットを使用した授業なので全米、全世界の看護師が対象となる。受講生として大学に来てもらいたいのであれば、他校と比較したプログラムの長さや専門分野の有無が問われる。そのため、他校ではどんな授業をし、どのくらい授業料を課しているか、プログラムの修了までどのくらいかかるかを比較できるようにしておくことが大切である。

4) DNP 課程を教える教員の条件

DNP 課程を教える教員の条件として下記の条件があげられた。

- ・専門領域での実践経験がある事。
- ・学生のレディネスをアセスメントし、どんな学習が必要か計画し、学生に対して学習効果を上げることができる教員。必要時、学生のメンターになることができる教員。
- ・PhD、DNP等の博士の学位を取得していること、かつ専門領域の実践能力が高いこと。そして、修士プログラムの授業経験がある事。
- ・授業はオンラインでの授業が多くなるためオンラインでの授業に精通している、またはオンラインでの授業について学習する姿勢があること。
- ・オンラインプログラムでは、学生が系統的にアプローチ出来るよう指導し、学生が独自の考えに固執しないように指導し、授業

内容が実践の場でいかに活用できるかを学生自身に気づかせ、学生が変化を起こせるように関わることができる教員であること。また、教員にその心構えを持たせることが大切である。

- ・DNPは、高度な看護実践を行い評価する能力やリーダーシップ能力を深める博士課程である。そのため、教授団は研究というよりも実践家の博士を育てることを念頭にいれ、教授できる必要がある。
- ・フィジカルアセスメントや薬理学などの授業内容が実践の場でいかに活用できるのかを学生に気づかせる能力を持っていること。
- ・キャップストーンプロジェクトを通し学生が変革者となれるよう教育・指導できること。
- ・国家的に、そして国際的に看護のリーダーシップに積極的に関与している人材。

5) DNP 教育の実際

インタビューした大学のDNPプログラムには大きく 2 種類ある。修士を修了した看護師のためのDNPプログラムと学士を修了した看護師のためのDNPプログラム¹⁸⁾である。具体例を表 2、表 3 に示した。修士を修了した看護師のためのDNPプログラムは、2 年コースで多くの授業はオンラインで行われる。そのため働きながらDNPの学位を取得することができる。1 セメスターで大学に集まるのは、授業前のオリエンテーション（オンラインの使い方、授業のアドバイザーとの面接、メンターシップについてなど）と、授業の中で3日から4日程度である。そのため、多くは自宅から好きな時間に受講できることになる。教員やクラスメイトとのやりとりはオンラインが中心となる。DNPプログラムの内容は、エビデンスの証明された研究を実践に生かすことを学ぶプログラムであり、初めの 1 年はエビデンスレベルの高い研究論文のシステムティックレビューや、法律、組織を動かすためのリーダーシップなどを学び、2 年目はキャップストーンプロジェクトという実践課題に取り組み報告

表 2. A 大学 DNP プログラム：修士号取得者の 2 年間カリキュラム (36 単位) ¹⁸⁾

1年目	春学期	生物統計学（3単位）
		疫学と統計（3単位）
	夏学期	エビデンスベースドリサーチ方法論（3単位）
		保健医療における経済と財政の分析（3単位）
	秋学期	アウトカムマネジメントと評価（3単位）
		上級情報学（3単位）
キャップストーンセミナー（1単位）		
2年目	春学期	複雑な医療分野における組織リーダーシップとシステムの中のリーダーシップ（3単位）
		医療を取り巻く政策とアドボカシー（上級編）（3単位）
	夏学期	保健医療分野での教育改革（3単位）
		キャップストーンプロジェクト計画（2単位）
	秋学期	キャップストーンプロジェクト実践（5単位）
		キャップストーンプロジェクト結果発表（1単位）

* 米国カリフォルニア州のA大学の例である

表 3. A 大学 DNP プログラム：学士号取得者の 5 年間カリキュラム (79 単位) ¹⁸⁾

ファミリーナースプラクティショナーコース

1年目	夏学期	研究方法（3単位）
		高度実践看護師理論（3単位）
		家族中心の高度実践看護（2単位）
		高度実践看護師の専門的役割（1単位）
	秋学期	上級病理学（3単位）
		上級情報学（3単位）
春学期	上級薬理学（3単位）	
	生物統計学（3単位）	
	疫学と統計（3単位）	
2年目	夏学期	エビデンスベースドリサーチ方法論（3単位）
		保健医療における経済と財政の分析（3単位）
	秋学期	上級ヘルスアセスメント　／演習（3単位）
		アウトカムマネジメントと評価（3単位）
		キャップストーンセミナー（3単位）
	春学期	健康増進、予防、スクリーニング（3単位）
臨床実習（2単位）		
医療を取り巻くアドボカシー（上級編）（3単位）		
3年目	夏学期	急性期疾患、症状／　演習（4単位）
		臨床実習（3単位）
		キャップストーンプロジェクト計画（2単位）
	秋学期	専門的なアドボカシー（1単位）
		慢性疾患、複雑な症状／　演習（3単位）
		臨床実習（3単位）
春学期	インターンシップ（4単位）	
	組織医療分野における組織リーダーシップとシステムの中のリーダーシップ（3単位）	
4年目～ 5年目	夏学期	インターンシップ（2単位）
		保健医療分野での教育改革（3単位）
	秋学期	キャップストーンプロジェクト実践（5単位）
		キャップストーンプロジェクト結果発表（1単位）

* 米国カリフォルニア州のA大学の例である

書を作成しプレゼンテーションを行い、審査されることになる。このキャップストーンプロジェクトがDNPプログラムの大きな特徴となる。これは、一部、臨床実習としてカウントされる授業である。DNPは臨床実践を行うことにおいて博士レベルであるため、臨床実習時間を確保することは重要である。この大学のDNPプログラムでは、修士課程での実習時間も追加して合計で1000時間の実習時間を費やすことが課せられている。

次にA大学の学士を修了した看護師のためのDNPのプログラム¹⁸⁾について説明する。このコースは、ファミリーナースプラクティショナー免許を取得するためのコースであり、地域でのプライマリーケアが中心となり実習も最低1000時間が課せられる忙しいプログラムになっている。A大学では、このコースはとても忙しいカリキュラムであるため学生がこのコースを履修しながらフルタイムで働くことは勧めていなかった。このコースの修了者は博士号の学位は取得できるが修士号の学位は取得できない。

6) DNP教育で工夫していること

DNP教育で工夫されていることとして下記の内容を教員は述べていた。

(1) オンライン教育について

- ・働いている学生が多いため自宅で学習できるオンラインでプログラムを提供している。
- ・オンライン教育が苦手な教員もいるため、教員の教育が大切である。オンラインプログラムのデザイナーとの共同作業も必要であるためデザイナーと定期的に話し合いを持っている。
- ・オンライン教育の欠点は、授業や課題提出の日時が柔軟なため学生が授業に遅れを取り、それが原因で中退してしまうことである。授業に出席しなくてもいいので遅れてしまい、勉強せず、受講生の一部は深い孤独感に苛まれることもある。また、24時間自分の都合の良いときに教員に質問できるため、あるいは、一度も教員にメールを出

さない学生もいるため、教員と学生の間でやり取りをどうするのか取り決めをしておく必要がある。例えば、教員とのメールのやり取りは1日1回か2回までとしておけば、受講生は良識を持って行動することができる。

- ・オンラインプログラムのほうが講義よりも手間暇を要するので注意が必要である。その注意点を予め教員、学生に伝えておくことが大切である。例えばコンピュータやインターネットに慣れていない学生もいるため、オリエンテーション時に問題が生じた時の対応について教育することも大切である。

(2) キャップストーンプロジェクトについて

- ・組織変革とその結果（アウトカムの向上）を出すことが重要視されたカリキュラムである。すなわち、患者アウトカムを向上させることが要求されるプロジェクトである。キャップストーンプロジェクトの指導教員は学生と1対1としている大学や、学生1人に教員3名がメンバーとして関わる大学など様々である。ストレス度の高いプロジェクトでもあるので指導教員の他にメンター制度などを活用している大学もある。
- ・メンター制度は、学生のドロップアウトを予防するのに有効である。
- ・入学前にキャップストーンプロジェクトをどうしたいのか学生に考えてもらうとよい。

(3) その他

- ・実習1000時間をこなすために、実習施設は学生が住んでいる地域で行う方式としている。そのため、臨床実習施設は学生が自分で探すことになる。そして、臨床実習の直接指導はその施設にお願いしている。
- ・ACNN（アメリカ看護系大学協議会）のDNP課程の会議に参加し情報交換をする。

7) DNPを取得した看護師が臨床の場で実践することの成果

DNPを取得した看護師が実践することの成果

について、下記の内容を挙げていた。

(1) 教員の意見

①DNPを取得した看護師が実践することの成果

- ・リーダーシップの訓練をしっかり学ぶことができるため、エビデンスの確立したケアをチームで患者に繰り返し行えるようになった。
- ・医療システムについて検討し、すべての患者に対して関係施設のシステム全体を改善する方法を決定できるようになった。
- ・1人の患者だけでなく、患者集団に働きかけることができるようになった。
- ・職場が求めるケアの判断ができる人材に変わった。

②DNPを取得した看護師が実践することで期待される成果

- ・思慮深い臨床家になれる。
- ・より良いそして新しいプログラムを構築することができる、独創的で革新的な臨床家になることができる。
- ・研究論文などの文献を読み、実践が変更された理由を理解できるようになる。
- ・エビデンスを収集し、変革を起こせるリーダーになることができる。

(2) 学生の意見

- ・DNPの学位を取得することで昇進したり、報酬が上がることはないが、尊敬（リスペクト）されるようになった。
- ・マネジメント業務がスムーズにできるようになった。
- ・エビデンスベースド・ナーシングを実践の場で応用できるようになった。
- ・You Tubeなどで良い看護を広める方法が理解できた。

3. 米国における高度実践看護師のための DNP (博士後期課程) 教育の課題

DNP 課程の課題として下記の課題が挙げられた。

1) 教員の意見

- ・オンライン教育は教員にとっては 24 時間勤務

になってしまうため時間を区切った仕事の進め方を教える必要がある。

- ・オンライン教育は学生にとっても負担となることがあるので注意が必要である。
- ・DNPの修了後キャップストーンプロジェクトを論文にするなど、社会に広める活動があまりできていない。
- ・せっかく立ち上げたキャップストーンプロジェクトが学位取得後継続されなくなってしまうことがある。
- ・雇用者がDNP取得者に対する理解がないと優秀な学生は医療現場でなく製薬会社等に逃げてしまうことがある。
- ・米国では膨大する医療費を抑制する目的で認定ナースプラクティショナーが増加している。DNP教育は、上級病理学・上級薬理学・上級ヘルスアセスメントの 3P (Pathophysiology, Pharmacology, Physical assessment) のような基礎科目を重視しており、心理学・社会学などの人文科学の応用分野が軽視されている。一部のDNPの学生は、看護理論や「看護とは何か」といった看護科目の関心が低く、患者の抱えるソーシャルニーズが捉えられず、患者の全体像を理解する看護本来の質が低下する懸念がある。
- ・DNPを修了した教員が少ない。
- ・APNの領域分野が細分化されているため、新しくプログラムを作るときには、どの領域に焦点を当てるのかの検討が必要である。米国全体では麻酔看護師は2020年に博士課程教育に引き上げられることがほぼ確定しているが、他のAPNは決まっていない。

2) 学生の意見

- ・多くの学生は働きながらDNPの学修を希望している。そのため家族の協力なしで続けるのは難しい。
- ・働きながら続けられることも可能であるが忙しいプログラムなので、予め奨学金などの制度があるとありがたい。自分はそれを利用し役に立った。大学にもよるが学費もかなり高

額である。

- ・ キャップストーンプロジェクトは計画通りいくわけではないのでプラン A だけでなくプラン B も考えておいたほうがよい。
- ・ 2年でDNPを修了しない人は多い。アフリカからのインターナショナルスチューデントもいる。
- ・ オンラインコースは書くこととプレゼンテーションがたくさんあり大変であった。特に簡潔に書くことが大変であった。

IV. 考察

1. 米国における DNP 課程の現状

米国ではDNP課程が激増していることから、看護実践を重視した博士号であるDNPのニーズが高いことが伺えた。また、理学療法士や作業療法士など他の医療職が博士号を求められるようになっていたため、チーム医療の観点からも看護師の博士号取得者を養成する必要性が高まっていることも要因の一つであると考えられた。

しかしながら、DNPは、専門性や領域による細分化を考えると様々な種類があることが予測できる。問題点として、すべての看護師の足並みをそろえるのは困難なことである。例えば、高度実践看護師の中でも麻酔看護師（Certified Registered Nurse Anesthetists: CRNA）のみが2025年までに博士号を取得しないと見られる現状が確定している⁷⁾。認定ナースプラクティショナーや専門看護師は多く存在し、様々な領域のスペシャリストであるがゆえに、プログラムを統一することは難しいのだと考えられた。

2. DNP 教育における課題

米国におけるDNP教育の現状と課題を踏まえ、我が国にDNPという博士課程を導入するための課題について考察する。米国において、現在は過渡期であり、DNPを修了したナースプラクティショナーも、修士号を取得したナースプラクティショナーも実践の場では給料などの差はないが、DNPを修了した看護師はリーダーシップ能力やEBNを実践に適用する能力は明らかに実

力がついているようである。これは求められる能力、すなわちコンピテンシーが明確にされ、その能力獲得にむけての教育が徹底されているためだと考えられる。

また、オンライン教育は、オンラインコミュニティの規模の拡大をもたらし、学生の交流を広く深いものにするKollerは述べている通り¹⁹⁾、利点があるが、オンライン教育において教える教員側の体制整備も、オンライン教育を成功させるために必要である。加えて、日本の看護学分野に博士後期課程を導入しようとする場合、理念の明確化、博士課程教育の重要性を教員のみならず、他の医療者・学生・一般市民など、関わるすべての人々に確信させること、そして教育システムのインフラストラクチャーの整備が必要である。どのような博士後期課程を目指すのか、オンラインプログラムの導入の検討、ドロップアウト防止対策、オンライン教育における効果的な教育方法の検討、教員の効果的なオンライン活用術の習得等の課題を検討する必要がある。

最後に、DNP教育は、自然科学の基礎科目を重視しており、心理学・社会学などの人文科学の応用分野が軽視され、患者の抱えるソーシャルニーズが捉えられず、患者の全体像を理解する看護本来の質が低下する懸念があることが、米国で活躍する看護系大学の教授から伝えられた。DNP課程導入の際には、自然科学だけではなく、看護の対象者を社会、心理、精神的側面などから捉えられるようなプログラムを検討する必要がある。

V. 結語

米国におけるDNP課程はPhD課程より需要が多く今後も増え続けることが予想された。そして、多くのDNPプログラムはオンライン教育であり、教員・学生共にオンライン授業についてメリット、デメリットを理解しておくことが大切であることがわかった。更に、DNPを修了した看護師は、リーダーシップやマネジメント能力を駆使し、現場に適応し、患者アウトカムを

向上させる能力が身につくことが示唆された。

謝辞

この調査は山梨県立大学大学院博士課程設置検討のための調査の一部として行われた。快く研究に協力してくださった大学教員、DNP課程の学生および修了者の方々に心よりお礼を申し上げます。また、この調査を行うにあたりコーディネートしてくださった Dr. Pamela Minarik (APRN、BC、FAAN)に感謝致します。

VI. 引用文献

- 1) 総務省行政管理局. (2014 年 6 月 25 日). 保健師助産師看護師法.
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23HO203.html> (最終閲覧日 2016 年 10 月 5 日) .
- 2) 日本看護系大学協議会. (2016 年 4 月 1 日) . 平成 28 年度会員校 (大学院一覧) .
<http://www.janpu.or.jp/campaign/file/glist.pdf> (最終閲覧日 2016 年 10 月 6 日) .
- 3) Minarik, P.A. , Chan G.K. (2012 年, 2013 年). Advanced practice nursing in the United States and Japan: Issues comparison, lessons learned and future directions for Japan. 東京医科歯科大学第 3 回シンポジウム (2013 年) および大分県立看護科学大学第 13 回ナースプラクティショナー年次総会 (2012 年) 報告書. p25-26, 59-60.
- 4) American Association of Colleges of Nursing.(2004). AACN position statement on the practice doctorate in nursing.
<http://www.aacn.nche.edu/publications/position/DNPpositionstatement.pdf>. (最終閲覧日 2016 年 10 月 6 日) .
- 5) Kirschling, J. M. (Jan.30th,2014).Reflections on the future of doctoral programs in nursing. American Association of Colleges of Nursing Doctoral education conference.AACN (American Association of Colleges of Nursing).
<http://www.aacn.nche.edu/dnp/JK-2014-DNP.pdf> (最終閲覧日 2016 年 10 月 6 日)
- 6) クローズ幸子. (2012). NP 教育と実践 : 米国での体験と日本への導入の課題、第 2 回シンポジウム「米国における高度実践看護師の現状と課題. Advanced Practice Nursing, 1(2), 8-10.
- 7) American Association of Colleges of Nursing. (August, 2015). The doctor of nursing practice: current issues and clarifying recommendations - report from the task force on the implementation of the DNP.

- <http://www.aacn.nche.edu/news/articles/2015/dnp-white-paper> (最終閲覧日 2016 年 10 月 6 日) .
- 8) 神田清子, 藤本桂子, 菊地沙織, 二渡玉江, 堀越政孝, 塚越徳子, 他.(2015). 看護職のキャリア形成としての大学院進学・人事交流に関する基本調査. 群馬保健学紀要, 35, 11-20.
 - 9) 大釜信政. 高度実践看護師の裁量権拡大に対する訪問看護師の認識. ヒューマンケア研究学会誌, 7(2), 45-54, 2016.
 - 10) 大釜信政. (2016). 高度実践看護師の裁量権拡大に対する高齢者施設看護師の認識. ヒューマンケア研究学会誌, 7(2), 35-43.
 - 11) 荻野康崇. (2016). 看護におけるフィジカルアセスメントの歴史的経緯と意義—米国と日本を比較して. 日本看護学会論文集 : 看護教育, 46, 123-6.
 - 12) 深澤拓方. (2013). 看護麻酔しに関する認識と意欲の関連—日本型高度実践看護師と麻酔科医の連携・協働の可能性. 日本手術医学会誌, 34(3), 261-4.
 - 13) 滝麻衣. (2012). 周麻酔期看護師の導入と法制化に向けた国際比較研究. 日本救急看護学会雑誌, 14(1), 21-7.
 - 14) 大釜信政. (2012). 高度実践看護師に求められる疾病管理能力に関する検討. ヒューマンケア研究学会誌, 3(1), 31-7.
 - 15) 廣岡佳代, 山田雅子, 梅田恵. (2011). 米国におけるがん看護高度実践看護師の役割および機能. がん看護, 16(1), 75-8.
 - 16) 正木治恵, 眞嶋朋子, 佐藤まゆみ, 石井邦子. (2008). バージニア大学における高度専門看護師 (APN) 教育に関する調査報告. 千葉大学看護学部紀要, 30, 57-62.
 - 17) Chan, G.K. & Cartwright, C.C. (2013). Advanced practice roles: the operational definitions of advanced practice nursing. In Hamric, A.B., Hanson, C.M., Tracy, M.F., O'Grady, E.T. (Eds.), Advanced practice nursing: an integrative approach (pp. 359-395). Missouri, U.S.A. : ELSEVIER.
 - 18) A University. (2014). Doctor of Nursing Practice. www.samuelmerritt.edu. (最終閲覧日 2014 年 3 月 16 日) .
 - 19) Daphne Koller. (2012 年 6 月) . オンライン教育が教えてくれること (TEDTalks) .
http://www.aoky.net/articles/daphne_koller/what_we_re_learning_from_online_education.htm (最終閲覧日 2016 年 9 月 12 日).

Current Situation and Issues of Doctor of Nursing Practice Program in the U.S.A.

KAMIJO Yuko, INOUE Miyuki, WATANABE Kazumi

key words: doctor of nursing practice, doctoral program, nursing education, U.S.A.